

# 都市医師会長からの抱負

## 会長四選を迎えて

岩見沢市医師会会長

倉増 秀昭



6月に実施された岩見沢市医師会理事選考は無風選挙となり、わたしを含め、現職理事が再選となりました。

岩見沢市の人口は、現在約8万5千人。ほかの多くの市町村と同じく農業中心の田園都市で、医師会会員は135名(A会員51名)、開業医のほとんどが入会致しておりますが、わたしの会長就任当初は、医師会主催の行事への参加は減少傾向にありました。

この状況に歯止めを掛けるべく、未入会勤務医に対して、4年前よりビールパーティーへの無料招待を実施したところ、年々参加者が増加し、その事により、開業医と勤務医とのパイプができ、互いに良好に連携できる状況が築かれ、地域の患者さんへ敏速かつ良質な医療提供のできる体制が実現致しました。

これと同時に、勤務医の医師会での会費を最低限の設定とし、現在実行致しております（詳細は岩見沢市医師会へお問い合わせください）。

また、岩見沢市医師会では医師会のみならず、歯科医師会との交流も重要視し、講演会の合同開催、また、医師会主導の「いわみざわ健康まつり」では、歯科医師にも講演をお願い致しました。

そのほかにも、囲碁、ボウリング、ゴルフの参加により交流を深め、それぞれの医師会長杯にも参加いただいております。

今後も、ほかの医療関係団体とも交流を深め、市民の健康を第一に考えた医療を目指して参る所存です。

救急に関しては、長年、岩見沢市立総合病院、北海道中央労災病院の二つの中核病院に車の両輪としてご協力していただき、なおかつ、開業医がこれに加わる体制で運営され、良好な救急体制が築かれて参りました。

しかし現在、この体制の円滑な遂行が難しい状況となることが表面化して参りました。その最大の理由としては、医師の高齢化と減少にあります。

それに加え、「新専門医制度」が地方都市でのますますの医師数の減少を招き、これにより、深刻な地域医療の崩壊に拍車がかかるのではないかと、強く懸念しております。

この状況を打破すべく、岩見沢市医師会としては、岩見沢市とも連携を強化し、新体制を早急に構築すべく、円滑な医師会運営を励行致す所存でございます。

## お知らせ

### 「団体扱い生命保険」年末控除証明書の発送について

◇医業経営・福利厚生部◇

当会の団体扱い契約にしている生命保険の控除証明書は、当会で取りまとめて、会員宛に発送をしておりましたが、個人情報保護の観点から、下記5社の控除証明書につきましては、今年度より保険会社から会員へ直送されることとなりましたので、ご承知おきください。

記

【会員へ控除証明書が直送される生命保険会社】

ジブラルタ生命、住友生命、明治安田生命、富国生命、朝日生命